

読み返し、書き直しをしてさらに自分を高めよう

作文の部 審査委員長 米山 一

今年も、4000 点を超える応募作品があり、最優秀賞 1 点と優秀賞 9 点が入賞となりました。全国展では 1 名が文部科学大臣賞、もう 1 名が農林水産大臣賞を受賞するという輝かしい成果を収めることができました。猛暑の中、頑張って作文に取り組んでくれた児童生徒の皆さんに敬意を表したいと思います。同時にご指導、ご協力いただきました多くの関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

文部科学大臣賞・J A 茨城県中央会会長賞を受賞した常陸太田市立峰山小学校 5 年笠原穂さんの「お茶わんいっぱい幸せ」は、戦争についての番組を見ていた時「疎開」という言葉が出てきたので、曾祖母にその意味を聞くところから書き出しています。戦時下での子どもたちの様子、食べ物大切さ、曾祖母の愛情の深さが見事に描かれています。会話文や方言も取り入れ、全体としてよくまとまっている見事な作品です。努力の跡がうかがえます。

農林水産大臣賞・茨城県知事賞を受賞した茨城大学教育学部附属中学校 2 年園部柚玲彩さんの「お米から広がる可能性」は、祖父の家での「田植え」体験が出発点になっています。毎日何気なく食べているお米ですが、よく考えてみると、単なる食料としてだけではなく、様々な用途があり、日本人の生活や伝統文化とも深く関わっていることに気づかされます。そして、将来の日本の食料事情にまで考えを広め、深めていっています。中学生らしいレベルの高い作品です。

他の 8 名の方々の作品もそれぞれ個性があり、感心しながら読ませていただきました。題名のつけかた、書き出しや結び、会話文の挿入、全体の構成などに気をつけながら整った文字で書き表すことが大事です。そのためには、一度書いた作文を読み直し、書き直す必要があります。そういう作業をすることで作品の質を高め、自分をより大きくし、高めていくことができるのです。

来年はこのコンクールも 50 回目となります。記念の年となりますので、多くの皆さんの力作を楽しみに待ちたいと思います。